



「見たり、聞いたり、探ったり」No.276

通算 No.427

青木行雄

「千葉県富里市に木材市場完成」新時代の幕開けか (東京中央木材市場株式会社がオープン)

令和5年2月4日(土)に千葉県富里市に建設を進めていた「東京中央木材市場株式会社」がグランドオープンした。かねてより色々うわさは聞いていたので、どんな市場なのか、期待は大きかった。

オープンの当日晴天に恵まれ、酒々井インターを出ると目の前に市場の看板が飛び込んで来た。このインターは「市場に来る為の出口が出来たのか」と思われる程、隣接している。

当日の来場者が多いのにもびっくりしたが、高低の多い土地を効率的に利用している所にもすごいなーと感心した。

「飯島義雄社長」より移転前に取引先へ発信した挨拶状を記した。

「この度、当社本社ならびに浦安市場の移転計画について、ご報告させていただきます。

当社は、昭和28年(1953)1月に東京都江東区木場4丁目で創業し、その後昭和38年(1963)に東京都江戸川区に移転しました。その後、昭和61年(1986)7月に千葉県浦安市に移転し、令和4年(2022)で70周年を迎えました。その間、首都圏における木材流通を担い、地元をはじめとした広域販売市場として、各産地荷主様のご協力を賜り、多くの木材販売店様にご利用頂いております。このような中、当社本社並びに浦安市場／浦安センターを千葉県富里市へ移転する計画を進めさせて頂いております。

新しい市場におきましても、国産材を中心とした無垢の木材製品を主に取扱い、皆様のご要望にお応え出来るよう問屋一同と協力し、利用しやすい木材市場を目指して参ります。今後は、木の魅力を多くの方々へ発信し、新たな提案をする事が私共の大きなテーマとなります。皆様のご理解ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます」



東京中央木材市場、場内配置図



新市場の地図



本社事務棟(木造建築)中が素晴らしい



当日の受付場所。時間が早かったので人は少なかった。これから混雑した

この様な挨拶を令和4年(2022)9月に全国の取引先へ発信した。

そしていよいよ令和5年(2023)2月4日(土)オープンとなり、式典壇上にて以下の挨拶でしめくくった。

『このたび、当社の新社屋ならびに酒々井インター富里市場が竣工を迎える事が出来ました。これも関係各位ならびに工事に関わって頂いた多くの方々のご協力と厚く感謝申し上げます。

当社、東京中央木材市場は、国産材を中心とした無垢(むく)の木材を全国から集荷し、それを木材販売店に販売する企業であります。その「木材にこだわる想い」から本物件では9棟の建築物の中で本社棟や展示棟など3棟を木造での建設をお願いいたしました。それを不二建設(株)様の技術とそのネットワークで実現して頂きました。昨今、木材を現わして利用することへの、リラックス効果など研究も進み、それは「木材セラピー」として注目されております。またSDGsの観点からも、CO₂を固定する機能を持つ「木材」は、時代のニーズと一致し、さまざまな可能性を秘めている素材と考えます。

関係者の皆さまの力で完成した「この作品」を、多くの方々に発信する事により、新しい需要を創出し、さまざまな産業の方々から注目される施設を目指して活用してまいります。』



木造事務所の中、ランの花が所狭しと飾られていた



2階には「飯島榮藏」様の銅像が飾られていた



オープン会場。400人近い着席の会場へ立席の人も多い会場の様子。社長の挨拶



開会式での鏡開き。左正面の飯島社長もさぞかし、御満悦のことか

酒々井ICに隣接する棚田状の土地約2.4ha、高低差約14mもある土地をいかに効率的に利用するかが課題であったと建設会社の不二建設(株)は苦勞されたようであるが、9棟中3棟は純木造で「本社棟 展示棟 休憩棟」が完成した。

東京木材市場協会としても長年実績を重ねた重鎮、市川英治氏が会長として、この新しくスタートした市場の開設にあたり、祝辞をのべたが、新時代の幕開にふさわしい名文につき、そのまま記すことにした。

「ただいま紹介に預かりました東京木材市場株式会社の市川英治でございます。僭越ではございますが、東京木材市場協会および関東センター協会を代表致しまして一言お祝いを述べさせていただきます。

立春のこの佳き日に本日は東京中央木材市場株式会社酒々井インター富里市場本社移転開設オープン記念市に御招待を賜り、厚く御礼申し上げます。東京中央木材市場様は、昨年までは千葉県浦安市に市場を開設しており、首都圏木材流通の拠点として中心的存在で、その機能を遺憾なく発揮し業界に確固たる地位を築いてられました。

今回オープンを迎えられた新たな富里市場は、本社移転の準備を含め2020年2月の建設予定地の視察から始まり、3年をかけて協議を重ねられて竣工にいたり、今日にいたるまで飯島社長をはじめ役員、社員の皆様、そして問屋の皆様の筆舌に尽くせぬほどのご努力があったものと思います。



問屋棟の倉庫。広々とした倉庫群



市が始まった風景。大勢の人々が声をかけ合っていた

顧みれば昭和28年1月、江東区木場で株式会社として創立、昭和38年12月に江戸川区に本社を移転され、それから着々と業績を伸ばされ躍進の基盤を築かれました。そして浦安市場を経て本日めでたくオープン記念市を開催されます酒々井インター富里市場は創立から70年目の節目の開場になります。

また、当市場の木造建築物は東京中央木材市場の問屋の皆さんから全ての木材を調達し建設されたとうかがっており「木の家づくりを応援する」という御社の旗印を体現されており、業界内外で大きな注目を浴びております。

木材流通を巡る状況は、これまでも、経済・社会の変化に伴い、大きく様変わりし、そのたびごとに、流通業界はそのニーズに応じて構造改革に努めてまいりました。そして今、木材を取り囲む環境はウッドチェンジ、ウッドショック、脱炭素社会、SDGsなど木材に関わる言葉が時代のキーワードになるなど大きな変革の時を迎えております。私はこの新しい酒々井インター富里市場が次世代への新たな飛躍の出発点となり、首都圏木材市場の中心になれることを確信しております。

結びに、東京中央木材市場様が首都圏、さらに全国の木材情報発信拠点として引き続き発展され、さらに富里の皆様にあられる市場としてご繁栄されますことをお祈りするとともに本日、ご出席の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

令和5年2月4日

東京木材市場協会

会長 市川英治

飯島社長、市川会長等の挨拶にて、この市場の規模はだいたいおわかりだと思いますが、これからの木材産業にどんな大波が立ち向かうか、どんな方向に行くのか、大手の建設会社も軒並に木材使用の高層ビル建築に力を入れ始めた。この波に我々業界がどのような対処をすればいいのか、出来るのか、これからの課題かも知れない。

令和5年2月25日 記